

古澤 瑞希

1. 事業実施の目的

今回の調査は、博士論文執筆のための予備調査として実施した。

2. 実施場所

佐賀県鹿島市・佐賀県佐賀市

3. 実施期日

2019年 8月30日(金)～ 2019年 9月 16日(月)

4. 成果報告

●事業の概要

報告者は、佐賀県内に伝承されている鉦を用いる浮立について、(A) 直径 30 cm～50 cm 程度の 10～20 個の鉦を同時に同じリズムで演奏する芸能と、(B) 直径 15 cm～90 cm 程度の 3～7 種の音高の異なる鉦を組み合わせて演奏する芸能の音楽形態・構造を、伝承している人々の視点からとらえ、(A) と (B) のふたつのタイプが佐賀県内に混在している理由を明らかにしたいと考えている。今回は、佐賀県において 17 日間の現地調査を実施した。本調査の具体的な目的としては、浮立を多く伝承している地域である鹿島市の鉦を用いる芸能の伝承状況について、鹿島市立図書館において文献調査を行い、また、鹿島市役所の生涯教育課の職員であり、地域の浮立についての豊富な知識を持っている A 氏への聞き取り調査を実施すること、及び、2 年次以降に行う予定の長期にわたるフィールドワークの準備として、16～17 地区の人々によって浮立が奉納される行事である「琴路神社の通夜(きんろじんじゃのとおや)」と「母ヶ浦の面浮立(ほうがうらのめんぶりゅう)」に関する調査を行うことであった。しかしながら、鹿島市役所の A 氏が体調を崩されており、長期入院からの退院直後であったことから、氏に聞き取り調査を行うことは実現しなかった。また、8 月 28 日から 9 月 1 日まで続いた豪雨の影響により、佐賀県内における移動手段が制限され、調査を予定通りに進めることができなかった。

現地調査は 2019 年 8 月 30 日から 2019 年 9 月 16 日にかけて実施した。実際のスケジュールは以下の通りである。

- ・2019 年 8 月 30 日：夕方現地到着。
- ・2019 年 8 月 31 日～2019 年 9 月 1 日：佐賀県鹿島市納富分にある琴路神社において、「通夜(とおや)」の調査を行なった。今回は、馬渡地区の鉦浮立、西傘田地区の鉦浮立、新町地区の獅子舞、井出分地区の一声浮立、筒口地区の一声浮立、末光地区の鉦浮立、小舟津地区の一声浮立、高津原地区の鉦浮立、久保山地区の一声浮立、犬王袋地区の鉦浮立、執行分地区の鉦浮立、川内地区の一声浮立、納富分地区の一声浮立、若殿分地区の鉦浮立、大殿分地区の鉦浮立、世間地区の一声浮立の計 16 地区による浮立の奉納が行われた。こ

これらのうち、8つの鉦浮立において鉦が用いられていたが、8つ全てが(B)のタイプの浮立であった。

・2019年9月2日～9月7日：鹿島市音成母ヶ浦に向かい、「母ヶ浦の面浮立」の練習に関する調査を行った。練習日は毎日調査を行う予定であったが、実際には保存会のかたがたに指定された2日間のみ調査を行うことができた。

・2019年9月8日：この事業についての申請書を提出した時点では、9月13日が「母ヶ浦の面浮立」の奉納の日であると聞いていた。しかし、実際に奉納が行われたのはこの9月8日であった。そのため、この日に、母ヶ浦地区の鎮守神社において「母ヶ浦の面浮立」奉納時の調査を行なった。今回は、西塩屋地区の面浮立、東塩屋地区の面浮立、母ヶ浦地区の面浮立、西葉地区の一声浮立の奉納が行われた。これらのうち、3つの面浮立において鉦が用いられていたが、3つ全てが(A)のタイプの浮立であった。

・2019年9月9日～2019年9月16日：杵藤地区の各市町役場における聞き取りを予定していたが、杵藤地区にある多くの自治体が豪雨の被害を受けており、実現しなかった。そのため、鹿島市立図書館や佐賀県立図書館における佐賀県内の浮立に関する文献調査を行なった。佐賀県立図書館については、申請をすればカメラによる資料の撮影が可能であったため、複写はせず、カメラによる撮影を行なった。

●本事業の実施によって得られた成果

琴路神社の通夜については、2年前の2017年にも調査を行なっている。そのため、今回の調査によって、2017年から2019年にかけての2年間でどのように奉納の様子が変化したのかを確認することができた。まず、神社付近の田畑が減り、個人住宅やアパートが増えていた。このことで人口が増えたためか、2年前に撮影した映像と今回撮影した映像との比較を行なった結果、執行分地区などのように衣装を新調している地区があったり、神社の拝殿に大きな照明が新しく取り付けられていたりするなど、「通夜」という行事のために使用される経費が増えているように思った。また、16地区によって奉納された浮立の演者については、子ども(小学生～高校生)が占める割合が少し増えていた。しかしながら、演目等については大きな違いは見られなかった。今後は演者・各地区の住民、行政の担当者への確認を行い、地域の行事が住民の移動から受ける影響を探りたい。

母ヶ浦の面浮立については、2016年に一度鹿島市の祐徳稲荷神社において開催されている「佐賀県伝承芸能フェスティバル」での演舞・演奏を録音・録画している。また、面浮立ではなく、同地区の人々が伝承している鉦浮立については、2017年、2018年の奉納時(いずれも旧暦6月19日の日程)に調査を行なっている。しかしながら、鎮守神社での面浮立の奉納についての調査、及び練習時の調査は初めてのことであった。今回、練習時などに聞き取り調査を行うことにより、母ヶ浦の面浮立の演者は、母ヶ浦地区の住民及び母ヶ浦地区出身の地区外に住む人々によって構成されていることがわかった。元々はひとつの世帯から1名～2名程度が演者として奉納に参加していたが、最近では地区内の人口が減っており、

ひとつの世帯から 5 名参加しているところもあるということである。また、頭取の B 氏の話によると、演舞・演奏に参加している子ども約 20 名（未就学児～高校生）については、PTA などの組織の協力と、練習時にアイスクリームを配ることによって、地区内から集めているとのことである。

また、母ヶ浦の面浮立の楽器編成・演目についても、(A) の浮立である面浮立でも、(B) の浮立である鉦浮立と全く同じ鉦を用いること、笛を演奏する人員も鉦浮立と同じ面々であること、しかしながら楽曲については鉦浮立と面浮立とは全く異なることが明らかになった。特に、(B) である鉦浮立の際には、鉦同士の音高の差異を用いて旋律のようなものを演奏しているが、(A) である面浮立の際には、鉦同士の音高の差異は無視し、全ての鉦を同時に同じリズムを打ち鳴らしていたことに注目したい。これは今後、鉦を用いる浮立を伝承している人々の楽器に対する意識を知る上で重要であると思われる。

これらの成果は、2019 年度の東洋音楽学会大会(於京都市立芸術大学)において口頭発表として、並びに総研大文化フォーラム(於国文学研究資料館)においてポスター発表として研究発表を行う予定である。また、その他の成果に関しても、2020 年 1 月の比較文化学基礎演習 II におけるリサーチプロポーザルにおいて発表する予定である。



写真 1 琴路神社拝殿前にて一声浮立を奉納する久保山地区の人々と、その後ろで鉦浮立を演奏しながらそれを待つ犬王袋地区の人々の様子 (2019 年 8 月 31 日報告者撮影)



写真 2 母ヶ浦の面浮立の道行の様子 (2019 年 9 月 8 日報告者撮影)

●本事業について

この事業により、経済的負担が軽くなり、フィールドに通常よりも長く滞在することが可能となった。そのため、異なるふたつの地域・時期の行事に関する調査を行うことができた。博士論文執筆に向けた口頭発表やポスター発表の発表準備を進めることにもつながり、大変重要な機会を得ることができたことにとっても感謝している。今後もこの事業を継続していただきたいと心から願っている。